

府立刀根山支援学校



テーマ:ICT 教材を活用し、児童の主体性を育む授業づくり

概要

ICT を活用し、児童の主体性を育み、達成感と自己肯定感を高められる授業づくりの推進

小学部の「特別教科 道徳」の授業を対象に、授業づくり研究を行いました。

授業づくりのテーマを、「児童の興味関心に即した、意欲を育み個性を伸ばさせる指導を行う」、「各自の自主性を尊重し、児童の主體的な活動を促進させる」、「創作活動を通して自己を表現する力を育み、目標としての発表の場を設定して、達成感と自己肯定感を高めていく」とし、指導のツールとして ICT 機器を活用し、演劇を通じた授業づくりに取り組みました。教材として、絵本や紙芝居、ICT 教材を使って読み聞かせや視覚提示を工夫し、気持ちを落ち着かせ、色々な物の見方や考え方があることを教職員全体で共通理解を図りました。また、児童の学習状況の実態把握を行い、個々に応じた課題設定を行いました。

実施

スケジュール

Research

6月25日(火)

首席、授業者、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

8月27日(火)

全体会

テーマ「『特別の教科 道徳』について」

Plan

9月上旬～

学習指導案の作成・検討

Do

<道徳>

12月17日(火)

事前授業・授業後の協議

2月25日(火)

研究授業・研究協議

Check & Act

3月上旬

アンケート集約

全体会

8月27日(火) 「特別の教科 道徳」について

支援教育推進室指導主事より

・「特別の教科 道徳」の基本的な考え方のポイントについて研修を行いました。それに伴い、「考え、議論する道徳」にしていくために「ねらいの検討」から「指導の重点」、「教材吟味」について校内研修を行いました。
(資料は抜粋)

【特別の教科 道徳の中心】

道徳教育の目標
教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基礎となる道徳性を養ふこと。

「道徳科」は学校の「道徳教育」の要

道徳科の目標
道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基礎となる道徳性を養ふため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心構え、実践意欲と態度を育てる。

【特別の教科 道徳の中心】

道徳性

道徳性の特徴
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。

道徳的価値を大切にする意欲
道徳的価値を実践しようとする意志の働き

道徳的規範
具体的な道徳行為への身構え

人間としてよりよく生きるための道徳的実践を可能にする資質・能力

【特別の教科 道徳の中心】

日常の生徒指導 (実践)

特別活動

学級や学校における生活上の課題等の解決を図る時間

行為

内面的資質 (実践力)

資料に即して、自らの生き方を振り返る時間

道徳科

最近どう思っている子どもが多いかな。友達の道徳科の授業も、道徳科を履修して「責任」をねらいとした授業をしよう。

年齢指導計画に基づいて計画的に！

- 子どもが道徳科の授業で多くの学びを得る中で主体的な道徳的行動が期待されること。
- 道徳性を高めること。
- ※1 特別の授業で

考え、議論する道徳

それぞれの考えを述べ合うことで、多様な考え方や感じ方に出会って自分の考え方、感じ方を深める

ねらいとする道徳的価値を自分なりに考え、道徳的価値に関わる自らの考え方、感じ方を自覚し、自己理解を深めていく

道徳科授業の「場」

具体的な授業の構想の手順を使って考えましょう

- 資料を読む
- 中心場面を考える
- 中心的な発問を考える
- 中心的な発問に対する「予想される子どもの答え」を考え、中心的な発問を生かす発問を考える

個人 → グループ → 全体

問

自分の立場から ひずりを再確認して、みんなで見つめよう	中心場面	みんなの立場から みんなが気づいて来よう
ひずりを再確認して、みんなで見つめよう	中心的な発問	みんなが気づいて来よう
みんなで見つめよう	予想される子どもの答え	みんなが気づいて来よう
みんなで見つめよう	中心的な発問を生かす発問	みんなが気づいて来よう

みんなが気づいて来よう

研究授業

学年・教科： 小学部 「道徳」
 単元名： 「そうじの時間」

「演劇を通じて、達成感を高める授業づくり」

児童が興味・関心を持つとともに、道徳科における学習内容を自分事として考えることができるような教材として、日常の場면을教職員が演じた「劇」の映像を活用した授業づくりについて検証しました。教材に ICT 機器を活用することで児童の意欲関心を高めることができたか、各班に分かれての話し合い活動は活発な意見交流となっていたか、各般の発表を通してより多様な考えに気付いていたか等について協議を行いました。

成果

<演劇を通じた授業づくりにあたって>

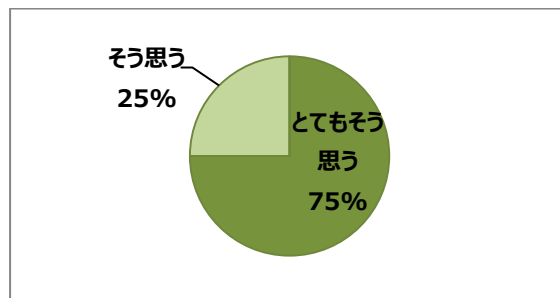
- ・ 子どもたちが学ぶことの意義や意味を理解できるよう、単元構成や授業展開を工夫する意識が高まりました。
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることを、個々の実態に合わせた教材の工夫とともに、子どもたちが中心となる課題に向き合えるよう発問の仕方を考えたり、子ども同士の対話をつなぐ言葉かけをしたりすることが大切であることを確認しました。

<ICT 機器の活用にあたって>

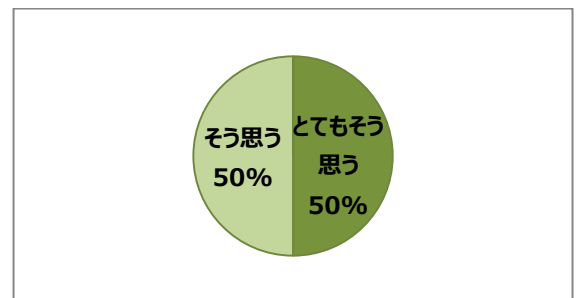
- ・ 身近な大人（教職員）が演じることで、子どもたちの興味・関心が高まり、ICT 機器を活用することで、中心発問の場面を何度も見直すことができ、学年ごとの話し合いの場でお互いの意見を聞いて、紙にまとめることができた。また、まとめた紙をカメラで撮り、モニターに映すことで、互いの考えを知ることができました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 「特別の教科 道徳」の授業づくりについて年間取り組んだ中で、センター指導主事による校内研や研究授業でいただいた助言を参考に、小学部および中学部で様々な議論を交わしながら授業アイデアを検討することができた。その結果、授業中での児童生徒の反応や成長を感じることができました。
- ・ パッケージ研修支援を通じて、教員自身が児童生徒の実態把握を的確に行い、楽しみながら授業づくりに取り組むようになり、今後は道徳以外の教科においても継続して授業づくりについて話し合っていきたいと思います。
- ・ 道徳について、基本的なことから研修をしていただき、とても分かりやすく、勉強になりました。また、評価について、児童の反応をどのように受け止めればよいのか、実際の児童の様子を見ていただいたうえで、ご指導いただけて参考にになりました。
- ・ 集団で活動することが難しい現状の中で、様々な工夫をご提案いただきたくさんの挑戦ができて楽しかったです。授業研がゴールではなく、来年度の指導にも生かせるアドバイスをいただき、本当にありがとうございました。
- ・ パッケージ研修に取り組むことで、みんなで授業を考えようとする意識が芽生えました。一人では考えることのできないアイデアに触れ、視野が広がり、一人で考えるより授業が深まった。
- ・ センターの方が来られて、思ったことを意見していただきありがたかったです。「センターの方の意見」という事で、全体が動いた部分は大きいと思います。また、客観的な意見が的を得ていたと思います。ありがとうございました。